

# 徳島

## 創作紙芝居が完成

開園10周年を迎えた「とくしま動物園」(徳島市波野町)で紙芝居を続けているボランティア団体が、オリジナルの紙芝居を初めて創作した。タイトルは「コンドルさんととくしま動物園のなかまたち」。動物園のシンボルとなっているコンドルと、周りの動物との交流を描いた。29日の10周年記念式典が終了後に初上演する。  
(伊勢剛)

### ボランティア団体が1年かけ

コンドルは動物園の長老。ずっと慕われてきたのに、ある日は……。紙芝居はこんな粗筋。お年寄りを大切にす温かい気持ちから出向いても、そっけない。一年老いた自分は、もう必生や主婦、会社員ら20〜60歳代



紙芝居を上演する「おしゃべりくまさん」のメンバーたち=徳島市波野町のとくしま動物園(同団体提供)

### 開園10周年 29日の式典後、初上演

の14人からなる「紙芝居ボランティア おしゃべりくまさん」。田中浩子会長(60)らメンバーの中心は、動物園を案内するボランティアだった。

05年のゴールデンウィークに、小動物との「ふれあいコーナー」の待ち時間が長くなってしまい、順番待ちで退屈している子どもたちのために紙芝居を始めた。以来、毎月第1日曜に上演している。

これまでは「たべられたやまんば」「おおきくおおきくおおきくなあれ」など、有名な大型絵本や紙芝居を図書館から借りていた。だが、「自分たちで紙芝居をつくりたい」という思いが強くなり、昨年5月に制作を開始。筋骨きやセリフの表現などを全員で議論しながら、約1年かけて完成させた。

「子どもたちの笑顔を見るのが楽しみ」と田中さん。メンバーは仕事や家事を抱え、本番以外の日にそろうのは難しいため、上演に向けてそれぞれが個人練習している。

「おしゃべりくまさん」は、動物園に来られない子どもたちにも楽しんでもらおうと、5月の連休明けから県内ならどこでも出前公演する「おでかけ紙芝居隊」も計画している。問い合わせは田中さん(0990・2893・1801)へ。